

## 指定管理者評価票(評価対象年度:令和6年度)

施設名	もとまち児童館、第一・第二東元町学童保育所	所属名	子ども家庭部 子ども子育て支援課
指定管理者名	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団	指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日
施設の設置目的	保護者の就労等により昼間適切な監護を受けられない児童に対し、適切な遊びと生活の場を与え、健全な育成を図る。		
事業概要	子どもに対する生活の場の提供、子どもの健全育成に係わること。		

単位:円

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	累計
<b>収入</b>	<b>61,172,608</b>	<b>63,747,823</b>	<b>64,307,619</b>	<b>189,228,050</b>
収入内訳				
指定管理料	60,273,433	62,783,892	63,383,476	186,440,801
利用料金	0	0	0	0
その他	899,175	963,931	924,143	2,787,249
<b>支出</b>	<b>61,172,608</b>	<b>63,075,764</b>	<b>59,013,832</b>	<b>183,262,204</b>
<b>収支差額</b>	<b>0</b>	<b>672,059</b>	<b>5,293,787</b>	<b>5,965,846</b>

※評価欄は、「5. 市の要求水準を大幅に上回っている」「4. 市の要求水準を上回っている」「3. 市の要求水準を満たしている」「2. 改善が必要である」「1. 抜本的見直しが必要である」のいずれかを記載すること。

指 標	評 価 項 目	評 価	理 由	前年度	前々年度
の収 適支 確計 性画	収支計画に基づき適正に執行されたか	3	収支計画に基づき適正に執行されていた。	3	3
業 務 の 履 行 状 況 の 評 価	協定等に基づき業務が実施されていたか	3	計画どおりに協定書に基づき業務が適切に実施されていた。	3	3
	開館予定日数・開館時間は守られていたか	5	シフト表、毎月の事業報告書、育成日誌等の書類及び現地調査の結果、開館・開所日数及び時間を遵守していた。児童館は日曜日開館の日数を増やし、中高生タイムにおいても求めに応じて開館時間を延長する等、ニーズに応え、利用しやすい環境を整えていた。学童は、導入した入室管理システムを活用し正確に児童の登降所確認を行っていた。	4	4
	業務遂行に必要な従業員数が確保され、執行体制が明確になっていたか	4	協定書・仕様書上の必要な職員・支援員等を配慮し、日々の運営も基準を満たした、適正な職員配置を行っていた。	4	4
	管理運営に必要な有資格者(防火管理者等)が確保されていたか	3	防火管理者を確保しており、施設内に掲示していた。学童は、放課後児童支援員を必要数確保していた。	3	3
	書類は適正に保管され、必要な報告がされていたか	4	書類は、鍵のかかるキャビネットに保管しており、協定書・仕様書に基づき必要な報告は、遅れることなく報告していた。また、その他、運営の中で必要となる報告についても、機を逃すことなく適切であった。	3	3
	施設全体が清潔に保たれていたか	4	職員による日常的な清掃と児童館では専門業者による清掃を行い、学童は水回り等汚れやすい所は重点的に職員が毎日清掃し施設が清潔に保たれていた。	4	4
	法定点検や検査等は確実に実施されていたか	3	予定されていた点検等は遅滞なく実施され、点検結果は、適切に保管されていた。	3	3

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3箇年平均
利用者数	もとまち児童館 18,331人	もとまち児童館 22,214人	もとまち児童館 23,419人	もとまち児童館 21,321人
利用件数	第一東元町学童 116.3%	第一東元町学童 141.1%	第一東元町学童 136.8%	第一東元町学童 131.4%
利用率	第二東元町学童 27.8%	第二東元町学童 39.6%	第二東元町学童 72.0%	第二東元町学童 46.5%
	※児童館は延べ利用者数	※児童館は延べ利用者数	※児童館は延べ利用者数	※児童館は延べ利用者数
	※学童は利用率(平均出席人数/定員数)	※学童は利用率(平均出席人数/定員数)	※学童は利用率(平均出席人数/定員数)	※学童は利用率(平均出席人数/定員数)
利用者満足度(%)	もとまち児童館 96.0%	もとまち児童館 92.0%	もとまち児童館 96.0%	もとまち児童館 94.7%
	第一・第二東元町学童 94.3%	第一・第二東元町学童 97.4%	第一・第二東元町学童 94.1%	第一・第二東元町学童 95.3%

※評価欄は、「5. 市の要求水準を大幅に上回っている」「4. 市の要求水準を上回っている」「3. 市の要求水準を満たしている」「2. 改善が必要である」「1. 抜本的見直しが必要である」のいずれかを記載すること。

指 標	評 価 項 目	評 価	理 由	前年度	前々年度
サービスの質に関する評価	利用者の満足度はどうであったか	4	利用者アンケートより、全体に対しての満足度において、95.1%が「満足」又は「どちらかといえば満足」と回答し、特に児童館においては、昨年度より上回り、水準を維持できている。	4	4
	利用者の声を施設の運営やサービスの向上に反映しているか	4	来館者が自由に書けるノートの常設が、引続き記入時のマナーを維持させながら定番化されており、ノートからのリクエストでイベント実施に繋げる等、実際に形にすることで利用者との信頼関係の構築に努めていた。学童は、保護者会やお迎え時、電話での機会において積極的に子どもたちの様子を伝えるよう努めていた。子どもたちの様子が伝わるよう施設入口や窓越しの作品展示も継続している。	4	4
	担当者のマナー、言葉づかい、服装等は適切であったか	4	利用者アンケートの職員に対しての満足度において、97%が「満足」又は「どちらかといえば満足」と回答されており、高い水準を維持している。利用者への声かけが暖かく、利用者が職員に話しかけやすい雰囲気づくりに努めていた。	4	4
	クレーム等に対して適切に対処していたか	3	苦情の発生はなかった。日々職員の情報共有を行い、問い合わせを受けた場合には、経緯等を正確に確認し、市への相談を行いつつ迅速な回答をし、適切に対応していた。	3	3
	個人情報が適切に取り扱われていたか	3	書類は整然とファイリングされ、施錠できる書棚に保管し、パソコンは、外部接続していない端末で管理し、施錠できる書棚に保管し適切に管理していた。	3	3
	業務に必要な研修を実施していたか	3	従事者育成に係る研修計画に基づき、法人本部、都、市、関係機関主催の研修を行っており、職員のスキル向上に努めた。受講したものは、職員全体で情報共有しており、研修資料は常に見返せるようにしていた。	3	3
	合理的配慮等、障害者への対応は適切であったか	3	学童では、児童の個々の特性を職員間で共有し、在籍する全児童が同様に活動を体験できるよう配慮していた。児童館では、学校に行きづらい子、そのように感じている子を対象とした外部団体と連携し遊びの活動を通して自己表現やコミュニケーションを体験する場を提供し、様々な子どもの居場所としての役割を果たしていた。	3	3
	業務の改善が図られていたか (※改善の指摘事項があった場合のみ記載)	—		—	—

施設 水の 準の 性 性 評 価 に 応 じ た	自然災害等への対応	4	必要な避難訓練が実施された。災害時のマニュアル等は職員全体に周知し、日々の朝礼、昼礼時に緊急事態発生を想定してシュミレーションし、危機管理意識の向上に努めていた。学童では、職員自らが3.11体験を子どもたちに伝え、緊急時対応への啓発に努めていた。	4	—
	学校及び地域等との連携による児童の育成支援への取組について	4	児童館では、協力してくださる人材との連携でカブトムシの育て方のアドバイスと、カブトムシを児童へ提供する行事を行い、協力者発掘によるもとまち児童館ならではの行事となっていた。隣接するさわやかプラザもとまちとの連携も深まり、夏まつり開催日に児童館と一緒に開催し、縁日行事でプラザ及び利用者の方々と児童が両施設を行き来し、楽しみを共有することができた。また、もとまち公民館との協同開催によるもとまちプチフェスや恒例の共催による、ふれあいまつりの開催と、地域ネットワークの中心施設として活躍していた。学童は校庭開放時の放課後子どもプラン委員との児童数確認がスムーズに行われている。学童の空調機故障時は、学校から体育館の使用を提案していただき、信頼関係が成り立っていることを実感した。その他、地域会議の出席や、近隣大学との連携による工作イベントの実施、恒例化してきたキッズプログラミングワークショップや夜の児童館体験を行い、地域での育成支援に大いに貢献している。	4	—
	配慮を要する児童への対応について	4	学童では、加配児には障害児入所協議会で決定した加配職員を適切に配置し、児童ごとに記録ノートに書き起こし、日々の保育での留意点を共有し、環境設定や児童への声かけに配慮していた。アレルギーのある児童について、年度当初に保護者との面談により留意点の確認を行っており、おやつ提供時は、アレルギー物質の有無を複数人で確認し提供ミスなく対応していた。	4	—

※指定管理者の選定時に、提案書において市の募集要項等を上回る水準の市主催事業の提案又は自主事業の提案があった場合の実施状況について、総合評価への加点の参考とすること(提案内容と実施状況の詳細は別紙確認票に記載すること)。

指 標	評 価 項 目	有無	実 施 状 況	有無	前年度	前々年度
関実提案 する 状況 内容 の 選定 時の 評 価	指定管理者の選定時に、提案書において市の募集要項等を上回る水準の市主催事業の提案があったか	有	当該年度において、提案内容の実施があったか(一部実施及び内容を見直しして実施した場合を含む)	有	提案 有無	有 提案 有無
	指定管理者の選定時に、提案書において自主事業の提案があったか	有	当該年度において、提案内容の実施があったか(一部実施及び内容を見直しして実施した場合を含む)	有	実施 有無	有 実施 有無

主管課長の評価				
総合評価		評価の理由等	前年度	前々年度
4	市の要求水準を上回っている	<p>児童館については、中高生の居場所づくりに関し特に力を入れた取り組みをしており、本来午後7時までとなっている開館時間を、中高生の求めに応じて午後8時まで延長する「中高生スペシャル&amp;タイム」を行い、その間についても、職員を適正に配置するなど、市が求める水準以上で業務に取り組んでいた。日曜開館についても、令和6年度は実施回数を増やし、その中で利用者の交流のためのイベントを実施する等、利用者同士の関係性の構築にも寄与していた。また、利用者会議や誰でも自由に書ける「じどうかんノート」から出された意見・要望等を踏まえ、乳幼児親子や小学生以上を対象とした各種行事を企画実施するとともに、地域農園での収穫体験や地域で活躍する人材を招いたマジックショー開催等の行事を実施し、地域の講師を招いたワークショップも開催する等、地域と連携した取組を展開していた。令和6年度に実施した水族館への遠足も非常に好評であり、高く評価する。</p> <p>学童保育所については、狭隘状況の中、学校の協力を得て学校施設を借用して分散保育を行いつつ、毎日の職員ミーティング等で障害児やアレルギー児の対応について情報共有等を行いながら、安心・安全な保育が実施されていた。また学年ごとに「ふれあいカフェ」を開催することで、普段子どもたちが遊んでいる様子が保護者に伝わり、安心感の確保に寄与した。</p> <p>今後も、学校及び地域等とのつながりや利用者とのコミュニケーションを大切にしながら、利用者のニーズを捉えた様々な行事等を実施するとともに、安心・安全な施設の管理運営に努められることを期待したい。</p>	3	3